

児孫のために美田を買う？

新日鐵住金株式会社 代表取締役副社長
(経営戦略・産業政策委員会 委員長)

榮 敏治 氏



今年のNHK 大河ドラマは「西郷どん」だ。

大河ドラマでは幕末か戦国時代の人気が高い。多くの人が時代の転換点のダイナミズムに魅了されるからだろう。

西郷隆盛は明治維新の立役者として、最も人気の高い人物ではないだろうか。

維新回転のダイナミズムは見る者の心を惹きつけ、あるいは鼓舞して魅力的であるが、彼の人となり、哲学もまた人を魅了する。

歴史や登場人物の評価も変化、多様化し、彼をテロリストと断言する人もいるようだ。

明治維新は革命である。謀略あり、暴力ありで血なまぐさい事件の連続でもあった。

しかし、私は彼の謀略家としての側面でさえ彼の魅力の一つだと思う。

学生時代に林房雄の大西郷遺訓を読んだことをふと思い出した。

きっと保守派の癖のある解釈だったのだろうと想像するが、もう40年も前の話で記憶も薄れた。もう一度読もうとアマゾンで検索したが既に古書に分類されている。まさに光陰矢の如し。

速いといえば今の世の中の変化のスピードはかつてよりずっと速い。これから先は今までよりもっと早く変化するだろう。

日本の社会、産業構造の変化はめまぐるしい。少子化、高齢化は既にそこにある危機だ。

AI、ロボットなど子供の頃に胸弾ませた夢物語が今や現実のものとなっている。さらに短期間で飛躍的に進化するだろう。グローバル化は一方で反感を生んだが、確実に進むだろう。

これから先100年にわたり企業が生き抜いて行くためには、変化に対して敏感で柔軟でなければならない。先んじて変化を作るということも必要だろう。絶えず自らを変革し、脱皮していかねばならない。

私のいる素材産業は息が長い。素材としての賞味期間が長く、製造設備も巨大で長寿命だ。

勢いイナーシアが働きやすい産業だ。

しかしこれから先は、これでは持たない。ライバル国の急迫、競合素材の出現等競争環境はますます厳しくなり、加えて社会や産業の構造が劇的に変わろうとしている。

幕末の時代の大きなうねりの中で大胆にかじ取りする、西郷や他の多くの登場人物のように若く熱い人材が欲しいところだ。変化には大きな力が必要だ。組織を動かすエネルギーがいる。この主役はやはり若い人たちだ。厳しい経営環境は飛躍のチャンスでもある。大いなる夢を持って若い人たちには生き生きと仕事をしてもらいたい。このためのお膳立ては我々熟年者？の責務だ。(自分では若いつもりではいるが)。西郷さんを敬愛する一人ではあるが、児孫のために美田を買わずとは言っておれない。敢えてその言葉に背く覚悟であるが、なかなか美田を見つける知恵がなく苦戦する毎日だ。